

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 1日

事業所名 放課後等デイサービスえーくらぶ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	当日の人数やスケジュールに応じて、スペースを区切る等の対応を行う。	
	2 職員の配置数は適切である	67%	33%	0%		介助度が高い児童の人数が多いと、安全確保の為の職員数が足りないと感じることがある。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83%	17%	0%		
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	0%		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	50%	17%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%	0%	法人内、苑内で主催、県や市で実施されている様々な研修に参加している	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	17%	0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	33%	17%		細分化しやすい固定のアセスメントツールがない為、今後導入を進めていく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	0%	プログラムを決める際、実施した曜日、月、メンバーを確認しながら決めている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	ルール理解の向上や、リハビリの観点から同じ活動を定期的に取り入れつつ、新しい内容のプログラムも組み込んでいる。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	平日日課に取り組み内容はだまかに固定し、長期休暇時等はその時期にしか行えないことを中心に支援を実施している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	0%	週案やホワイトボード等を活用し、すぐに確認しやすく動きやすいよう対応を行う。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%		
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83%	17%	0%		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	相談員を交え、定期的にモニタリングを実施している。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	83%	17%	0%			
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	0%	事前に事業所内での子どもの様子等を聞き取り、まとめた上で担当者会議へ参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	0%	それぞれの学校のHPや保護者への連絡事項(プリント等)を共有して頂き、情報共有を図っている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	50%	17%	33%		入所施設内での看護師配置しか現時点ではとることが困難な為、医療ケアが必要な児童の受け入れは困難
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	0%	17%	新規利用希望をきいた際は、相談員からの情報共有、また必要に応じて利用している保育所へ見学へ行くこともある。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	0%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	0%	発達障害アドバイザーの研修、講義を受け、勉強する機会を設けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	17%	50%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	50%	33%		参加の検討を行う。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	連絡帳、送迎時等にてお伝えしている。必要に応じて電話等で話す機会も設けている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	17%	17%		必要に応じて実施していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	87%	17%	0%	契約時に必要書類を用いて説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	連絡帳、送迎時等にてお伝えしている。必要に応じて電話等で話す機会も設けている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	17%	33%		必要に応じて開催していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	0%	記録等に残す、場合に応じて全員で話し合い等を行い再発防止に努められるよう全員で周知していける対応を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	17%	17%		
	35	個人情報に十分注意している	83%	17%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	83%	17%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	33%	33%		感染対策を行いながら、少しずつ再開を目指す
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	83%	17%	0%	事業所での対応に変更点等があった場合は、随時書類等でお知らせを行い、周知している	
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	苑全体での訓練に参加している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	0%	苑全体での研修に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	83%	17%	0%	契約時に必要書類を用いて説明を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	0%	苑内でのヒヤリハット、事故報告書を書面にて全員に共有し、必要に応じて研修を実施する。	